

PHILIPS

Healthcare



第14回日本臨床睡眠医学会学術集会 ランチョンセミナー1

開催日：10月6日（金）12:10～13:10

会 場：第1会場（梅田スカイビルタワーウエスト36階 スペース36L）

CPAPを用いたSAS病態解明

座長：河合 真 先生 スタンフォード大学 精神医学科 睡眠医学部門

演者：中山 秀章 先生 東京医科大学 睡眠学講座

参加方法：直接会場へお越しください。

共催：第14回日本臨床睡眠医学会学術集会／株式会社フィリップス・ジャパン

株式会社フィリップス・ジャパン
〒108-8507 東京都港区港南2-13-37 フィリップスビル
www.philips.co.jp/healthcare



© 2023 Koninklijke Philips N.V.

記載されている製品名などの固有名称は、Koninklijke Philips N.V.またはその他の会社の商標または登録商標です。

第14回日本臨床睡眠医学会学術集会 ランチョンセミナー1

開催日：10月6日（金）12:10～13:10 会場：第1会場（梅田スカイビルタワーウエスト36階 スペース36L）

CPAPを用いたSAS病態解明

中山 秀章 先生 東京医科大学 睡眠学講座

睡眠時無呼吸症候群(SAS)は、肥満や小顎などの解剖学的因子、呼吸の不安定性、上気道開大筋の反応性に加え、覚醒しやすさの4つが主な因子として働き、相互に関与、影響しあい、疾患を形成する。そして、間歇的低酸素血症、睡眠の分断、交感神経の亢進、胸腔内圧の変動等を介して、多様な症状、所見（フェノタイプ）を呈する。それを踏まえ、個々の患者に合わせた個別化医療が求められるようになっている。しかし、リアルワールドでは、以前、CPAPが第一選択である。CPAPによりAHIの改善は明らかに認めるが、AHIだけでは多様なフェノタイプを説明することは不可能であり、病態や予後を反映する指標が提案されているが、AHIに代わる指標は確立していない。

AHIの背景にある個々の患者の病態因子を評価することは、個別化治療に結びつくものである。その歴史を振り返ると、Wellmanらが、2011年にCPAPを用いたOSAの病態のアプローチを報告した。その理論は革新的で、SASの病態解明、その後の治療選択に多大な影響を及ぼした。さらに改良を加え、2013年には簡便法を提案している。しかし、それでも、時間及び労力を要し、研究室レベルでのアプローチであることは変わらない。その後、病態を評価する方法はいろいろと考案されているが、実臨床で利用するには課題も多く、普及していない。

しかし、この考え方を理解することは、実臨床でCPAPをうまく使えない際に、背景の理解に役立つ可能性があり、本講演では、CPAPの現在の位置づけとともに、CPAPを用いたOSA病態解明について、話をさせていただく。